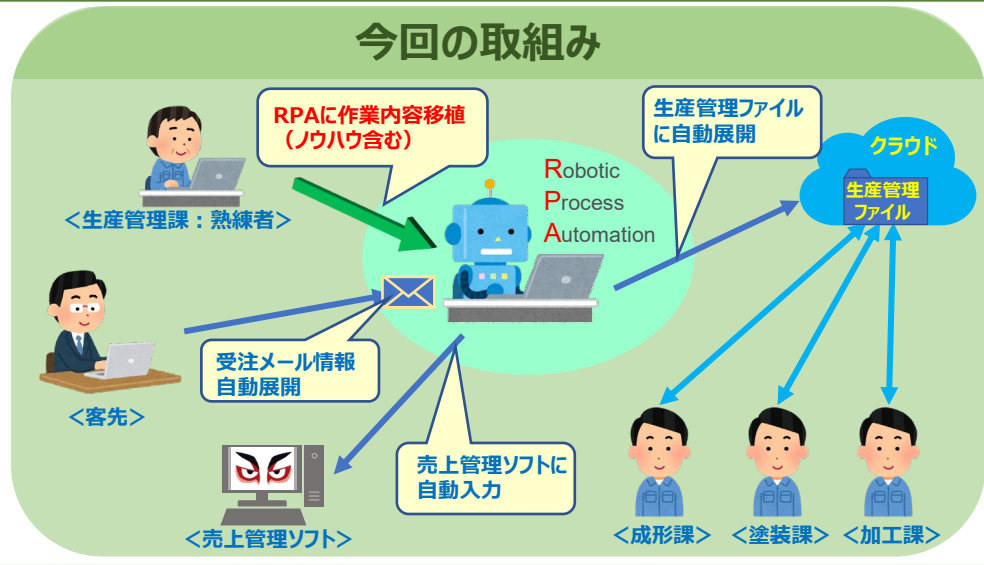


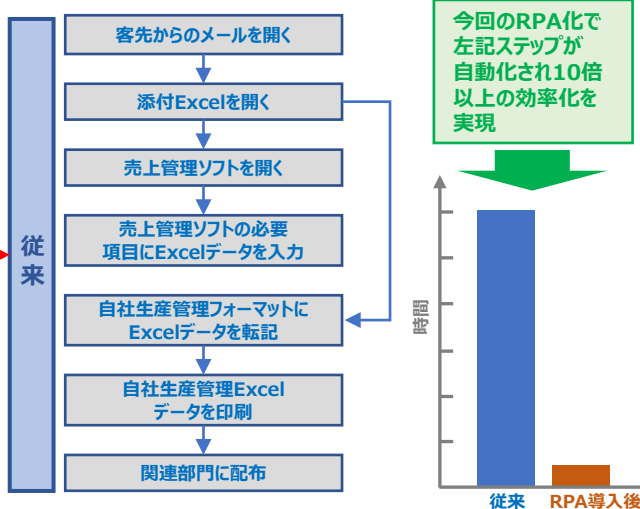
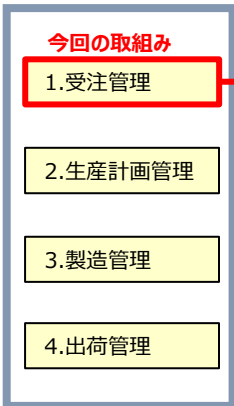
令和4年度 製造現場へのAI・IoT導入促進補助金交付事業 成果報告 原馬化成株式会社「RPAを活用した生産管理業務のIoT化」

「働き方改革」実現のためには、業務のデジタル化が必須であり、従来は先行して製造現場のIoT化を進めて来たが、今後は生産管理部門のDX化も必要となってきている。生産管理部門は会社の司令塔であり、この部門で熟練者になるためには、会社のすべての仕事に対する深い知見が必要で、経験の浅い人には任せにくい仕事になっている。そのため**熟練者の業務負担は増加し、かつ高齢化**してしまう一方、非熟練者はデータ入力等簡易作業に工数を取られ、必要な教育を受けにくい傾向にある。この問題解決のため、RPAを利用して**熟練者の知識、経験を自動化作業に置き換え、非熟練者でも短期間で熟練者同等の仕事を行える**ようにくみを変えることが本事業の目的となる。この第一ステップとして今回は受注管理の以下の作業をRPAで自動化をおこなった。①客先から受注情報（納期・数量）を入手。②受注情報を売上管理ソフトへ手入力。③受注情報を各製造現場へデータ配布



成果

<生産管理業務全体>



今後の課題・展望

- 現状の課題は、複数客先から送られてくる個別形式の受注データの様式/形式の統一化の実現であり、納期短縮等の客先メリットも訴求しながら地道に協力をお願いしていく
- また、今回ソフト開発会社からRPAの技術指導を受けた社員を中心に、左記の生産管理業務全体にRPAを導入していく
生産管理業務はすべて手作業で行われており、主な作業はPCデータ入力、ラベル準備など繰り返し**毎日行う単純作業が8割以上を占めており自動化によりかなりの効率化を見込んでいる**
- RPAは現状では、単純作業の自動化しか出来ないが、専門家によれば後3年もすればAIがRPAに実装されて、今はできない複雑で複合的な判断も自動で行えるようになっていわれており、さらなる業務効率化が期待できるので、引き続き社員のDX教育も進めていきたい